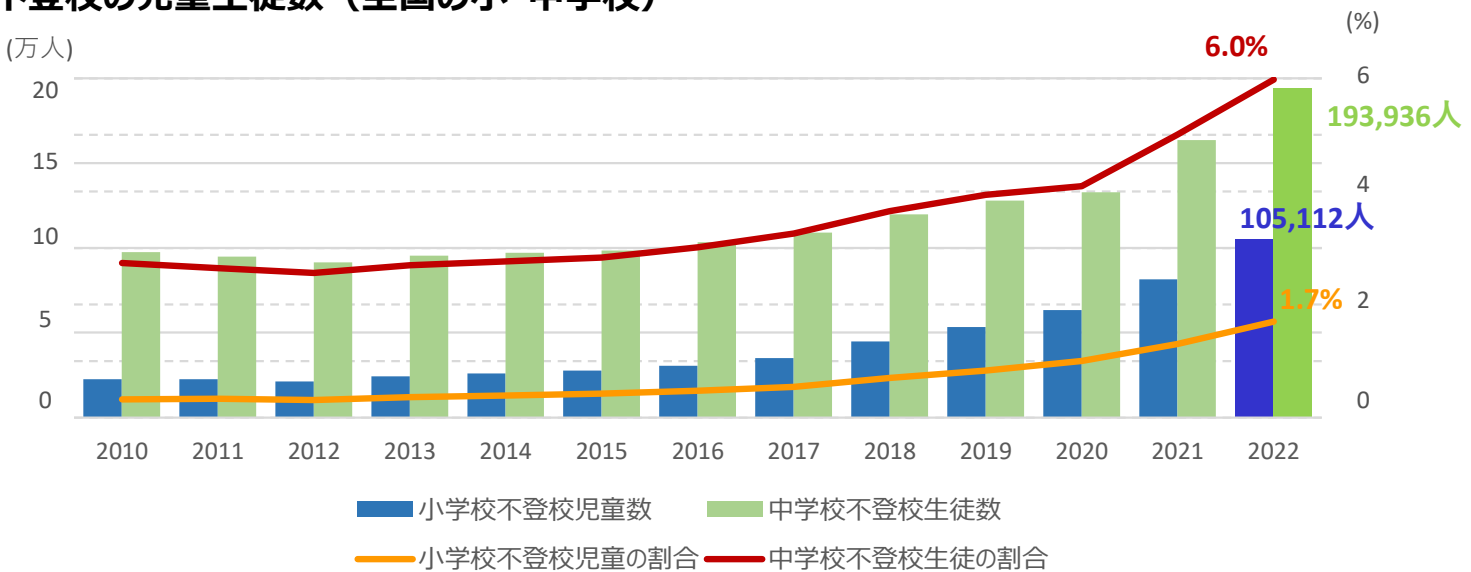


2023年10月、文部科学省が「不登校のこどもの数」や「不登校になったきっかけ」など、こどもの置かれている状況についてまとめた調査結果を発表しました。

「こどものイマを考える vol.2」では、こういったデータを通して、子どもと学校、子どもたちの健康状態、居場所、相談できる場所などを見ていきます。

①【不登校の状況】

不登校の児童生徒数（全国の小・中学校）



不登校となったきっかけ

(単位%) ※	学校に係る状況				家庭に係る状況			本人に係る状況	
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	学業の不振	教職員との関係をめぐる問題	入学、転編入学、進級時の不適応	家庭の生活環境の急激な変化	親子の関わり方	家庭内の不和	生活リズムの乱れ、あそび、非行	無気力不安
小学生	6.6	3.2	1.8	1.8	3.2	12.1	1.5	12.6	50.9
中学生	10.6	5.8	0.9	3.8	2.2	4.9	1.7	10.7	52.2

※不登校の児童数または、生徒数に占める割合。

Point!!

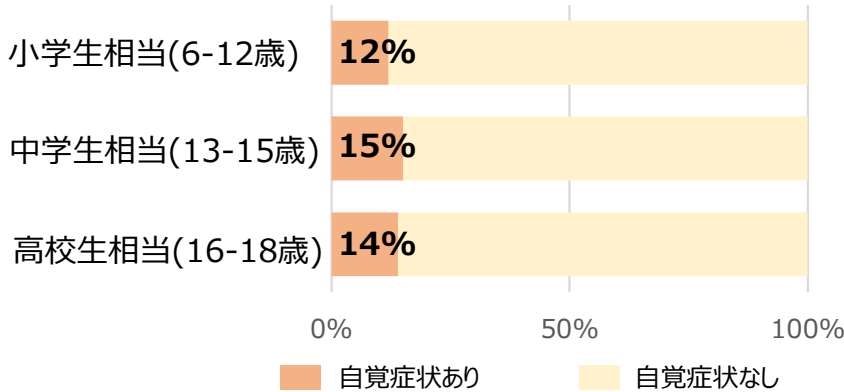


- 2022年度、小学校・中学校あわせて、不登校生徒数は299,048人（過去最多）となりました。過去5年間の傾向として、小学校・中学校ともに不登校児童生徒数、そしてその割合は増加しています。さらに国立、公立、私立の高等学校では不登校生徒数が約6万人にのぼります。
- 不登校の諸課題に関する調査では、小中学生ともに、「無気力・不安」が特に多いことがわかりました。
- 小中学生ともに1%に満たない回答項目は、「いじめ」「進路に係る不安」「クラブ活動、部活動等への不適応」「学校のきまり等をめぐる問題」「教職員との関係をめぐる問題」でした。

②【こどものころとからだの状態】

「ここ数日、病気やけがなどで体の具合が悪いところ（自覚症状）がありますか」

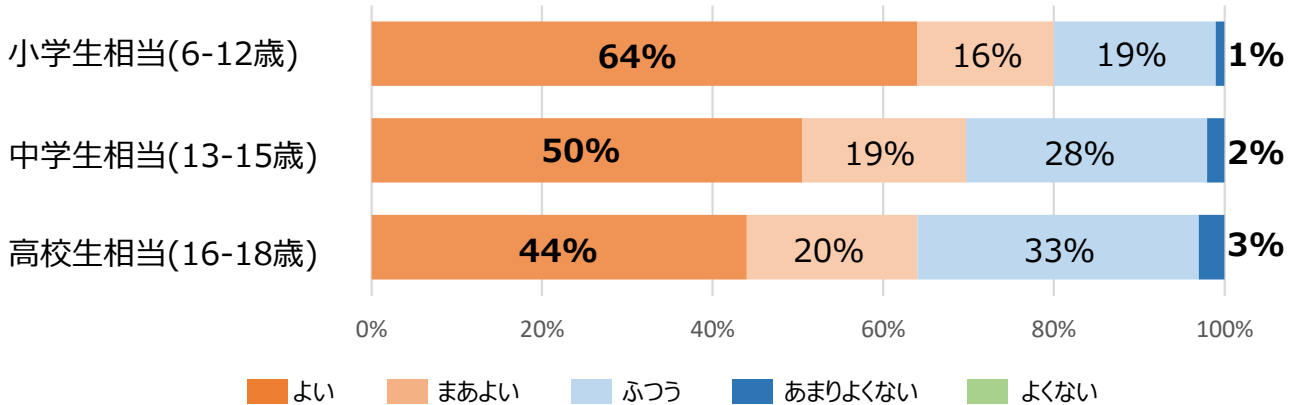
Point!!



自覚症状ありと回答した中で、最も気になる症状についても聞いています。

- 小学生相当：鼻汁（26%）、かゆみ（12%）、骨折・捻挫（6%）
- 中学生相当：鼻汁（26%）、骨折・捻挫（12%）、頭痛（10%）
- 高校生相当：頭痛（10%）、骨折・捻挫（9%）、鼻汁（8%）

「あなたの現在の健康状態はいかがですか」



注）「よくない」と回答したこどもは、四捨五入で0%（小学生相当0.1%、中学生相当0.3%、高校生相当0.4%）のためグラフ上に表示しておりません。

Point!!



年齢があがるにつれ、自覚する健康状態を「よい」「まあよい」と評価するこどもの割合は減る傾向があり、「あまりよくない」とするこどもの割合が増える傾向があります。

出典：「国民生活基礎調査」（厚生労働省 2022年）のデータに基づき集計

「全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか」（中学2年生を対象とした質問）



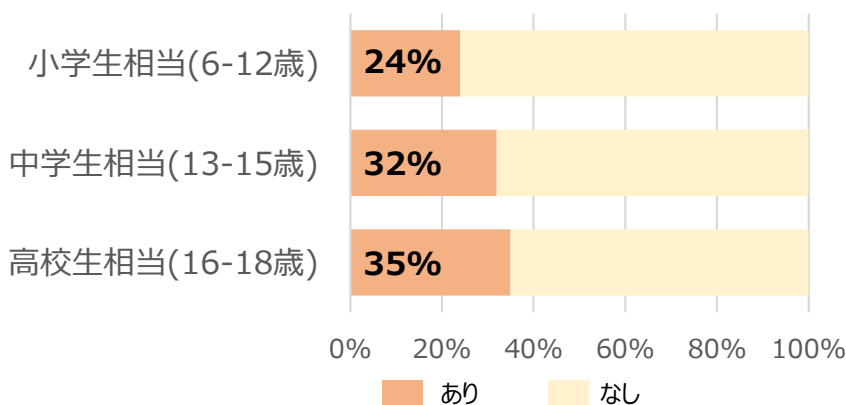
注）0を全く満足していない、10を十分に満足しているとした0から10までの数字で、満足度を質問。回答人数は、中学2年生2,715名。

出典：「子供の生活状況調査」（内閣府 令和3年）データをグラフ化

③【こどもたちは相談できている？】

Point!!

「あなたは現在、日常生活で悩みやストレスがありますか」



悩みやストレスがあると回答した中で、最も気になる悩みやストレスについても聞いています。小学生、中学生、高校生いずれも「学業」もしくは、「家族以外の人間関係」を挙げているこどもが多くみられました。

(学業：小学生相当5%、中学生相当55%、高校生相当59%、家族以外の人間関係：小学生相当25%、中学生相当21%、高校生相当13%)

「悩みやストレスを、どのように相談していますか（最も気になる悩みやストレスの相談状況）」

(単位%) ※	家族に相談している	友人・知人に相談している	職場の上司、学校の先生に相談している	病院・診療所の医師に相談している	相談したいが誰にも相談できないでいる	相談したいがどこに相談したらよいかわからない
小学生相当	71.2	43.1	13.6	3.1	1.8	1.7
中学生相当	68.0	55.3	17.0	4.5	1.8	1.1
高校生相当	63.5	60.9	19.3	4.2	2.9	2.0

※前項「あなたは現在、日常生活で悩みやストレスがありますか」の質問で「ある」の回答者の中での割合。

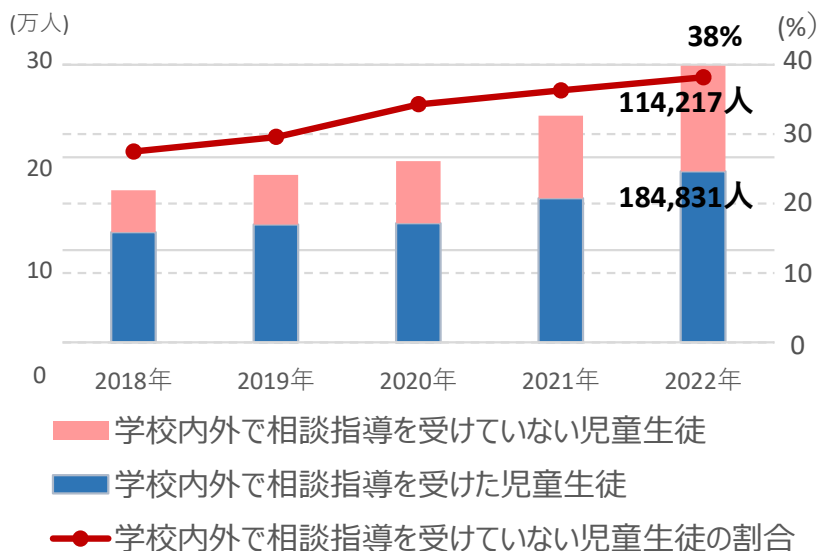
Point!!



小・中学生、高校生ともに家族に相談するケースが最も多く、年齢が上がるにつれ友人・知人に相談している割合も増えています。この調査でも、“相談したくても相談できない”でいる場合が一定数みられます。

出典：「国民生活基礎調査」（厚生労働省 2022年）のデータに基づき集計

「小・中学校における不登校児童生徒のうち、学校内外で相談・指導等を受けていない児童生徒数・割合の推移」



Point!!



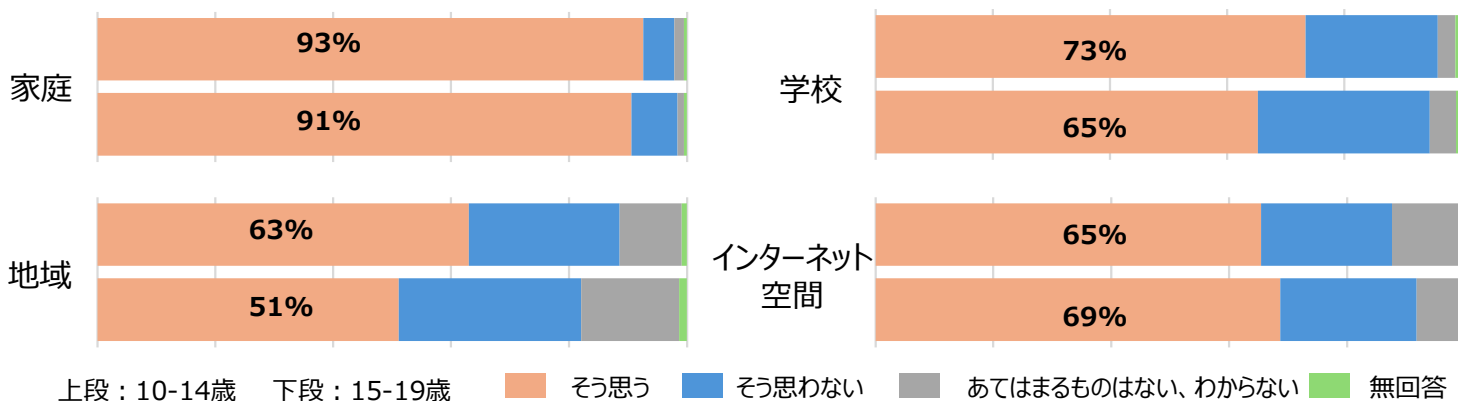
- 文部科学省の調査（※）では、小・中学校における不登校児童生徒のうち、学校内外で相談・指導などを受けていないこども達の数が約11万4千人にのぼり、過去最多であったことを報告しています。
- 高等学校（国立、公立、私立）においても学校内外で相談を受けていない生徒数が約2万5千人にのぼっています。

出典：「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」（文部科学省 令和4年度）のデータをグラフ化

④【こどもたちが頼れる場所 こどもたちを支えていくもの】



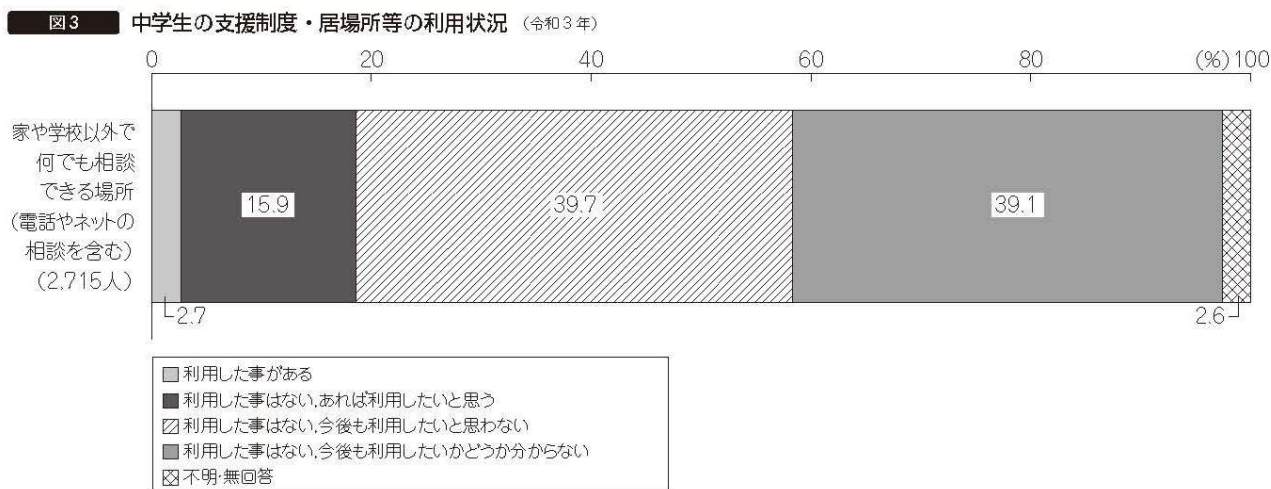
「次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、安心できる場所）になっていますか」



※地域（図書館や公民館や公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物など）、インターネット空間（SNS、YouTubeやオンラインゲームなど）

出典：「こども・若者の意識と生活に関する調査」（内閣府 2022年）のデータをグラフ化

「中学生の支援制度・居場所等の利用状況」（令和3年）



注）調査対象は、全国の中学2年生とその保護者5,000組（有効回収数2,715組）。調査時期は令和3年2～3月。郵送配布郵送回収またはオンライン回答。中学生が回答。
資料：内閣府政策統括官（政策調整担当）「令和3年子供の生活状況調査の分析」2021

「中学生の支援制度・居場所等の利用による変化」（令和3年）

(単位%) ※	友達が増えた	気軽に話せる大人が増えた	生活の中で楽しみな事が増えた	ほっとできる時間が増えた	栄養のある食事をとれる事ができた	勉強が分かるようになった	勉強する時間が増えた	その他	特に変化はない
	21.5	15.9	29.9	26.3	5.7	15.0	21.5	7.3	33.8

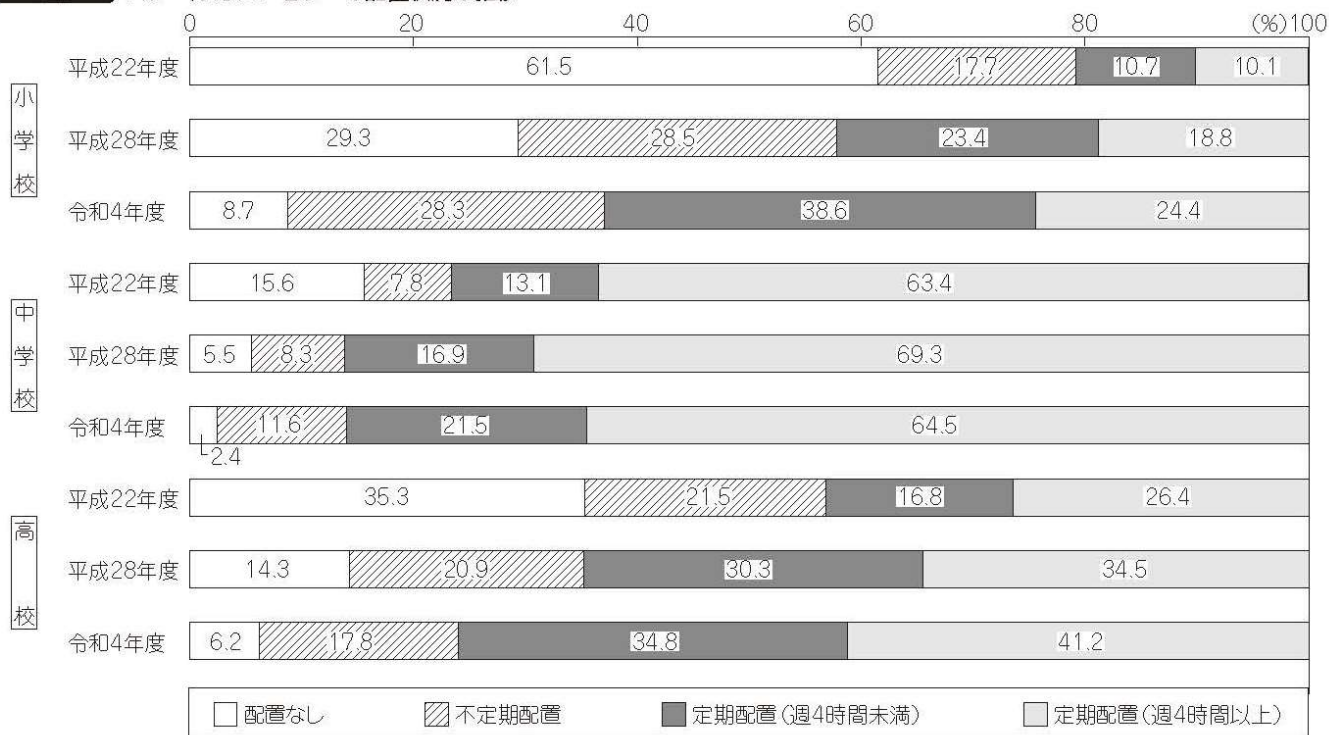
※支援制度・居場所等を「利用した事がある」と回答した441人を集計。複数回答。資料：内閣府政策統括官（政策調整担当）「令和3年子供の生活状況の分析2021」

出典：KTC中央出版発行『日本子ども資料年鑑2023』

⑤【こどもたちを支えていくもの 支援体制・国の動き】

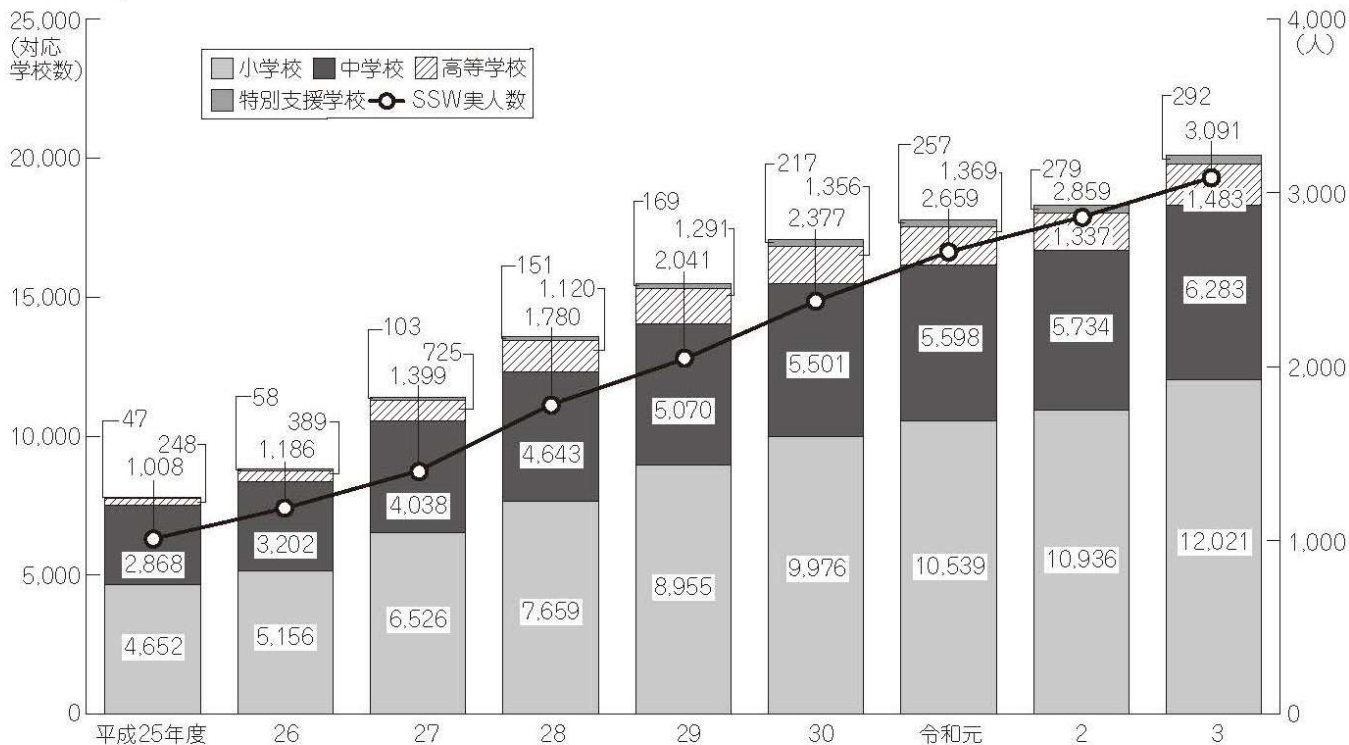
「スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの学校での配置状況」

図1 スクールカウンセラーの配置状況の推移



資料：文部科学省「学校保健統計調査」

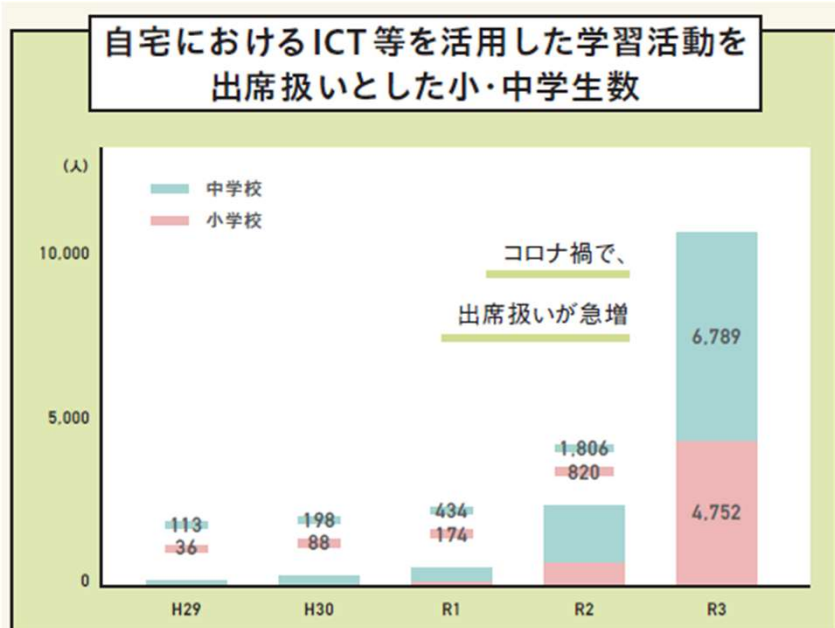
図2 スクールソーシャルワーカーの配置状況の推移



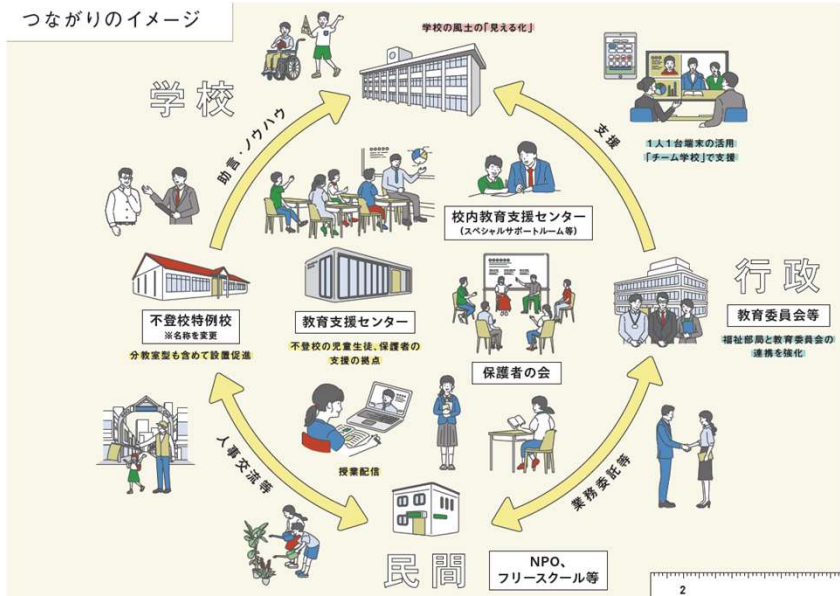
(注) 平成25年度から、いじめ対策等総合推進事業の1メニューとして実施。
資料：文部科学省初等中等教育局「スクールソーシャルワーカー活用事業に関するQ&A」2023

⑥【こどもたちを支えていくもの 支援体制・国の動き】

「通学以外の学ぶ機会の広がり」



つながりのイメージ



＜文部科学省「COCOLOプラン」＞

令和5年3月、文部科学省から「誰一人取り残されない学びの保証に向けた不登校対策COCOLOプラン」が取りまとめられました。

近年の不登校児童生徒数が増加は、生徒指導上の喫緊の課題となっています。COCOLOプランの中で、「つながりのイメージ」「目指す姿」を提示し様々な取り組みの推進を始めています。

こどもたちの学校が、居場所がより居心地の良い安心できる場所になることを願います。

＜文部科学省＞
COCOLOプラン

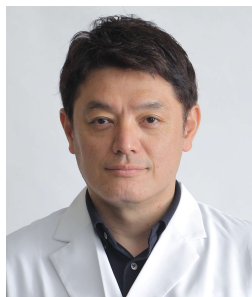


＜文部科学省＞
不登校のページ



出典：「誰一人取り残されない学びの保証に向けた不登校対策COCOLOプラン」（文部科学省R5年3月発行）

コメント



2016年頃から少しずつ増えていた不登校の児童ですが、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に合わせて拍車がかかり、さらに増加しています。都内の小中学校では、体調不良も含めて登校できていない児童生徒が1クラスに常時数人います。今回の調査では、自身にとってほっとできる、安心できる場所としてインターネット空間と答えた児童の割合が全体の65～69%あり、学校と同程度であったことが印象的でした。SNSやオンラインゲームなどを通じてバーチャルな交流ができる環境は、集団生活に適応することが難しい児童にとってはまさに「居場所」になります。発達障害（神経発達症）を有する、抑うつや不安など精神症状を抱えている、頭痛や腹痛など身体症状を伴うなど、不登校の児童の特性や置かれた環境は様々ですが、ほとんどのケースがインターネット空間に没入しているのが現状です。このような時代背景を考慮する必要がありますが、親や友人、学校教員を含めた身近な者が本人に寄り添い、温かい支援を継続していくことの重要性は、いつの時代にも変わることはないでしょう。

（国立成育医療研究センター こころの診療科 医師 岡 牧郎）

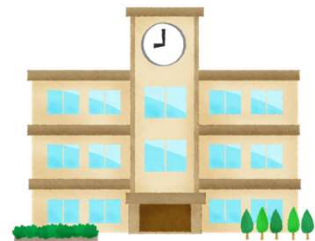


Memo

【全国の学校設置数と児童生徒数】

＜令和5年度の全国の学校数（学校教育法に規定する国・公・私立の合計）＞

分類	学校数
小学校	18,980校
中学校	9,944校
高校（全日制・定時制）	4,791校
高校（通信制：独立校、併置校、協力校の合計）	599校



＜令和5年度の全国の児童生徒数（学校基本調査による）＞

分類	学校数
小学生	6,049,685人
中学生	3,177,508人
高校生	2,918,501人



- ・ 総務省が「こどもの日」にちなんで公表したデータ（人口推計2023年）によると、2023年4月時点でこどもの数は1,435万人、総人口に占めるこどもの割合は11.5%、42年連続減少となっています。
- ・ 小学生年齢（6-11歳）は604万人（4.9%）、中学生年齢（12-14歳）は321万人（2.6%）となります。

【国民生活基礎調査について】

日本国民の健康状態や世帯状況などを把握し、政策を企画立案するための基礎資料を得ることを目的とした調査です。3年ごとに大規模調査が実施されており、日本全国の数十万世帯を対象としています。

【子供の生活状況調査について】

無作為抽出による全国の中学2年生の子ども、およびその保護者約5000組を対象とした調査です。